



ガス瞬間湯沸器

取扱説明書 33-557型

保証書付

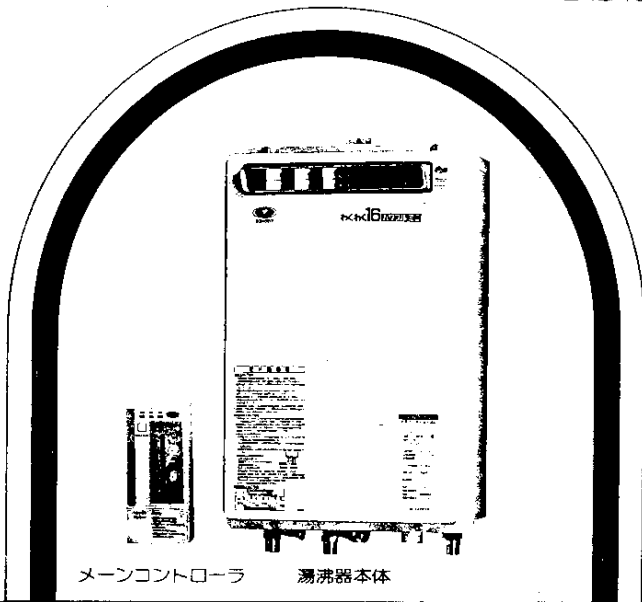
型式名/YS1614R

本社ガスビルサービスセンター・支社所在地および電話番号

本社ガスビルサービスセンター	〒541 大阪市東区平野5-1	☎大阪06(202)2221
南支社	〒557 大阪市西成区玉出2-9-41	☎大阪06(652)0001
北支社	〒532 大阪市淀川区十三丁目3-6-35	☎大阪06(301)1251
堺支社	〒590 堺市生吉橋町2-2-19	☎堺0722(38)1131
北摂支社	〒569 高槻市藤の垂町39-6	☎高槻0726(71)0361
阪神支社	〒662 西宮市和上町4-11	☎西宮0798(26)3101
東部支社	〒578 東大阪市綿葉2-3-17	☎河内0729(62)1131
京阪支社	〒573 枚方市西田吉町16-17	☎枚方0720(41)1251
神戸支社	〒650 神戸市中央区相生町5-13-10	☎神戸078(578)5231
京都支社	〒604 京都市中央区堀川町358	☎京都075(231)8151
奈良支社	〒631 奈良市学園北2-4-1	☎奈良0742(44)1111
和歌山支社	〒640 和歌山市本町1-5	☎和歌山0734(31)2481
姫路支社	〒670 姫路市神室町4-8	☎姫路0792(85)2221
豊播支社	〒675 加西市志加吉町岡栗津29-1	☎加西0794(21)1801
豊岡支社	〒668 豊岡市三坂町6-57	☎豊岡07982(3)2221
滋南支社	〒525 彦根市湯分司字荒尾680-1	☎彦根0775(62)5311
彦根支社	〒522 彦根市大森町12-11	☎彦根0749(22)3131
(長浜営業所)	〒526 長浜市南浜町3-4	☎長浜0749(62)7171

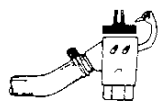
その他当社サービスステーション、およびサービスショップ

大阪ガス株式会社



メインコントローラ 湯沸器本体

ガス器具をご使用になるときのご注意



ガス器具をご使用になったあとは必ずガス元栓も閉める習慣を



ガス器具をご使用中は熱くなります手をふれないでください！



ガス器具はガスの種類にあった正しいものを

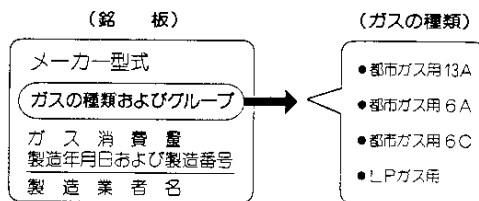
●ご使用前に必ずこの説明書をよくお読みの上、正しく操作してください。なお、ご不明な点があればお買い求めの販売店、またはもよりの大阪ガス支社にお問い合わせください。

特に注意していただきたいこと

正しく安全にお使いいただくために、この項は必ずお読みください。

使用ガスについてのご注意

- ① 湯沸器(銘板)に表示してあるガスの種類およびガスグループ以外では使用しないでください。
- ② 銘板は湯沸器正面右下に貼っています。
- ③ ガスの種類には都市ガスとLPガスとがあり、都市ガスにはガスグループの区分があります。



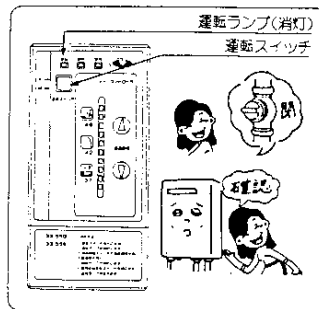
使用電源についてのご注意

- 電源の電圧と周波数をご確認ください。
この湯沸器はAC100V、60ヘルツ用です。お宅の電源の電圧と周波数が一致しているかご確認ください。

使用上のご注意

① ガス漏れ予防

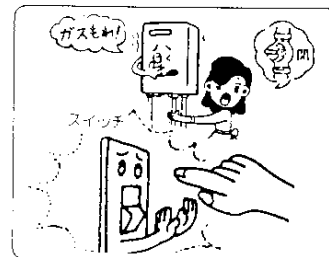
- ① 長期間使用しないときは、必ずガス元栓を閉じてください。
メインコントローラをご使用の場合は運転スイッチも「切」にしてください。
- ② 使用中にガスのにおいや、不快なおいがないかときどき確かめてください。



特に注意していただきたいこと②

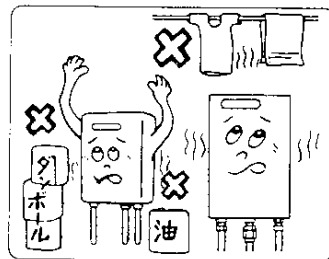
② ガス事故防止

- ① ガス漏れに気付いたときは、ただちに使用を中止して、ガス元栓を閉じ、お買い求めの販売店、またはもよりの大坂ガス支社にご連絡ください。
(絶対に使用しないでください。)
- ② ガスが漏れたときは絶対に火をつけたり、他の電気器具にふれたり(スイッチの「入」「切」や電源プラグの抜き差しなど)しないでください。



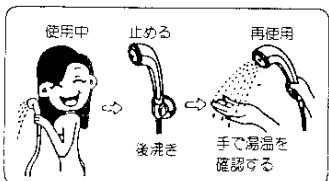
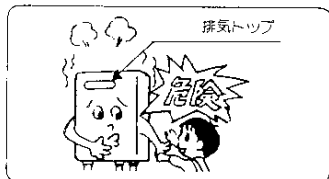
③ 火災予防

- 湯沸器の上やそばに燃えやすいもの(洗たく物、ダンボール、揮発油など)を絶対においたり、近づけたりしないでください。



④ やけどのご注意

- ① 使用中または使用後しばらくは、湯沸器本体の排気トープは熱くなります。手を触れたりしないでください。
- ② シャワーをご使用直後、再びお使いになるときは、いきなり体や頭にかけて、手で湯温を確かめながらお使いください。(一瞬熱いお湯がでることがありますのでご注意ください。)



特に注意していただきたいこと③

㊦飲料用や調理用にお使いのとき

- 湯沸器を長時間使用しなかったときは、すぐに飲料用や調理用にご使用にならないで、少し湯(水)を流してからご使用ください。

㊧用途について

- 給湯およびシャワー以外の用途には、使用しないでください。

㊨市販の補助具について

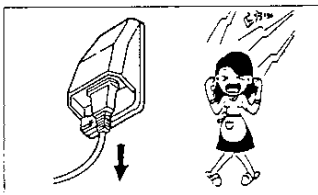
- この湯沸器用の付属部品および別売部品以外は使用しないでください。

㊩異常時の処置

- ご使用中にふたんと違った状態になったときや、不具合が生じたときは、あわてず給湯栓を閉じ、運転スイッチを「切」にし、ガス元栓を閉じて十分な点検をしてください。(詳しくは、15～18ページの「故障・異常の見分け方と処置方法」の項をごらんください)

落雷のおそれのある時

- ①雷による一時的な過電流で電子部品を損傷することがありますので、雷が発生したときは、すみやかに電源プラグをコンセントから抜いてください。また、電源プラグ・コンセントを用いず、直接配線工事されている場合は、その回路の電源ブレーカのスイッチを切ってください。



- ②雷が遠ざかったことを確かめてから、電源プラグをコンセントにしっかりと差し込んでください。

凍結についてのご注意

- ①この湯沸器には、冬期の凍結による破損予防のために「凍結予防ヒータ」が内蔵されています。凍結予防ヒータが作動する可能性のある期間中は、緊急の場合以外には、電源プラグを抜かないでください。
- ②厳寒期には湯沸器内の水が凍結し、破損事故が起こることがありますので、湯沸器内の水が凍るおそれのあるときは凍結を予防する処置を必ず行ってください。(詳しくは11～13ページの「冬期の凍結による破損予防について」の項にしたがって処置をしてください)

日常の点検・手入れ

- ①日常の点検・手入れをしてください。(詳しくは14～15ページの「日常の点検・手入れ」の項をごらんください)

特に注意していただきたいこと④

- ②湯沸器が故障または破損したと思われるときは使用しないでください。このとき、ご自分で修理なさらずに、必ずお買い求めの販売店、またはもよりの大阪ガス支社にご相談ください。

湯沸器の設置・工事

- ①湯沸器の設置・工事は、お買い求めの販売店、またはもよりの大阪ガス支社に依頼し、安全な位置に正しく設置してご使用ください。(詳しくは「工事説明書」をごらんください)
- ②この湯沸器は屋外専用ですので屋内には絶対に設置しないでください。

使用手順

使用前の準備と確認

- ①湯沸器の操作をする前に次のことを行ってください。

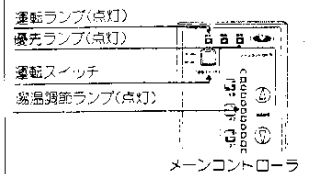
手順 1	手順 2	手順 3	手順 4
<ul style="list-style-type: none"> ●給水元栓を全開にしてください。 	<ul style="list-style-type: none"> ●給湯栓を開いて水が出ることを確認し給湯栓を閉じてください。 	<ul style="list-style-type: none"> ●電源プラグをコンセントにしっかりと差し込んでください。 	<ul style="list-style-type: none"> ●ガス元栓を全開にしてください。

〈ご注意〉通電後、約5秒間は器具を操作しないでください。

使用方法

①点火・出湯(お湯の出し方)

- ①メインコントローラの運転スイッチを押して「入」にしてください。(メインコントローラの運転ランプ、優先ランプおよび湯温調節ランプが点灯します)
- ②給湯栓を開きまると、自動的にバーナに着火し、お湯がでます。(この際、メインコントローラ・湯沸器本体の燃焼ランプが点灯し、着火が確認できます)

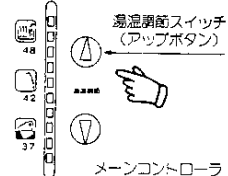


使用手順 ②

② 湯温調節のしかた

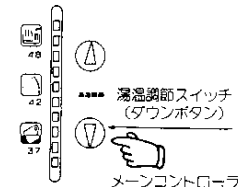
- ① メーンコントローラの優先ランプ・湯温調節ランプが点灯していることを確かめてください。(点灯していない場合、お使いのシャワーコントローラ(別売部品)の優先スイッチを押して切替えてください)
- ② メーンコントローラの湯温調節スイッチ(アップボタンまたはダウンボタン)を下記の要領で操作し、10段階の中からお好みの温度にセットしてください。(低約35℃～高約80℃の間で選ぶことができます。)
- ③ 冬期水温の低い時など、湯温調節ランプを「高」の位置に操作されても熱い湯が出ないことがあります。そのような時には給湯栓を少し絞ってお使い下さい。

お湯をあつくりたいとき



- アップボタンを1回押すごとにひとつずつ高温の温度設定になります。

お湯をめろくしたいとき

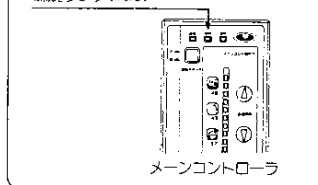


- ダウンボタンを1回押すごとにひとつずつ低温の温度設定になります。

③ 消火・出湯停止(お湯の止め方)

- ① 給湯栓を閉じると、お湯が止まり、自動的にバーナも消火します。(この際、メーンコントローラの燃焼ランプが消灯し、消火が確認されます。)
- ② ご使用後はメーンコントローラの運転スイッチを押して「切」にしてください。(すべてのランプが消灯します。)
- ③ お出がけやおやすみの際など、長期間器具を使用しない場合は、ガス元栓を閉じてください。

燃焼ランプ(消灯)



使用手順 ③

〈ご注意〉

- ① 使いはじめは、給湯配管内にたまった水が流れ出すまで、お湯は出てきません。(約30秒待つてもお湯が出てこないときは、給湯栓をいったん閉じて、メーンコントローラの運転スイッチを「切」にし、再び運転スイッチを「入」にして、給湯栓を開いてください。)
- ② 高温設定したときには水の中の空気が分離して気泡となり、お湯が白くなる場合がありますが空気ですので何ら心配はありません。
- ③ 水圧が下がった時など能力が十分出ない場合があります。そのような時には、湯温調節スイッチを押して湯温を高温側に設定し湯水混合栓で水と混ぜて適温にしてお使いください。
- ④ 湯沸器に不具合が生じた時には、燃焼ランプが点滅し、点滅状態により不具合の原因を知らせます。(詳しくは18ページの「異常報知(警報モニター)について」の項をごらんください。)
- ⑤ 停電時や電源プラグを抜かれた場合、再通電しますとコントローラの設定温度は約42℃になりますので、再度お好みの温度に調節しなおしてください。

使用手順 ④

シャワーコントローラ(別売部品)の使用方法

■各部の名称

優先ランプ(黄)

- このランプが点灯しているときはシャワーコントローラで湯温調節ができます。

優先スイッチ

- 優先ランプを点灯・周回させて、各部の操作までは必ず優先スイッチの切替に使用します。

湯温調節ランプ(10段階)

- 設定温度を知らせます。

湯温調節スイッチ(ダウンボタン)

- お湯をぬるくしたいときに押しします。1回押すごとにひとつづつ低温の設定温度になります。

湯温調節スイッチ(アップボタン)

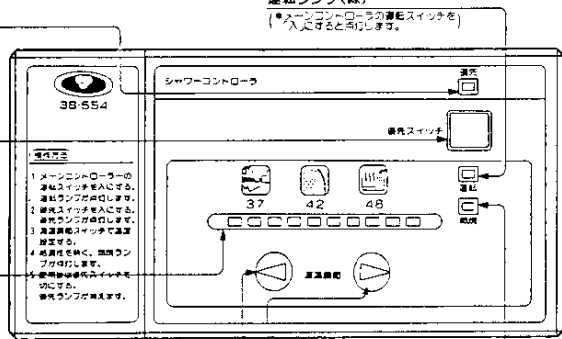
- お湯をあつくしたいときに押しします。1回押すごとにひとつづつ高温の設定温度になります。

燃焼ランプ(赤)

- バーナに着火すると点灯します。

運転ランプ(緑)

- バーナに着火すると点灯します。



ご注意

- ①湯洗器に不具合が生じたときには、燃焼ランプが点滅します。点滅状態により不具合の原因を知らせます。

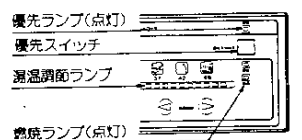
(詳しくは18ページの「異常通知(警報モニター)」についての頁をごらんください)

①点火・出湯(お湯の出し方)

- ①メインコントローラの運転スイッチを押して「入」にしてください。
- ②給湯栓を開きますと、自動的にバーナに着火し、お湯が出ます。
(この際、メインコントローラ・シャワーコントローラの燃焼ランプが点灯し、着火が確認できます)

②湯温調節のしかた

- ①シャワーコントローラの優先スイッチを押してください。
(シャワーコントローラに切替されると、優先ランプ・湯温調節ランプが点灯します)



使用手順 ⑤

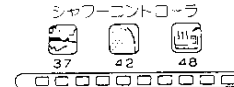
- ②シャワーコントローラの湯温調節スイッチ(アップまたはダウンボタン)を下記の要領で操作し、10段階の中から好みの温度にセットしてください。
(低約35℃～高約80℃の間で選ぶことができます。)
- ③冬期水温の低い時など、湯温調節ランプを「高」の位置に操作されても熱い湯が出ないことがあります。そのような時には給湯栓を少し絞ってお使いください。

お湯をあつくしたいとき



- アップボタンを1回押すごとにひとつづつ高温の温度設定になります。

お湯をぬるくしたいとき



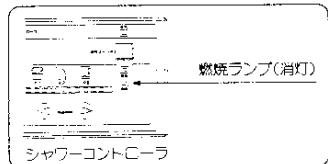
- ダウンボタンを1回押すごとにひとつづつ低温の温度設定になります。

■浴室外操作(メインコントローラの操作)への切替

- シャワーコントローラの優先スイッチを押してください。
(シャワーコントローラの優先ランプ・湯温調節ランプが消灯し、メインコントローラの優先ランプ・湯温調節ランプが点灯します)

③消火・出湯停止(お湯の止め方)

- ①給湯栓を閉じますと、お湯が止まり、自動的にバーナも消火します。
(この際、メインコントローラ・シャワーコントローラの燃焼ランプが消灯します。)
- ②ご使用後は、メインコントローラの運転スイッチを押して「切」にしてください。
(すべてのランプが消灯します)
- ③お出掛けやおやすみの際など、長期間器具を使用しない場合は、ガス元栓を閉じてください。



〈ご注意〉

- 停電時や電源プラグが抜かれた場合、再通電しますとコントローラの設定温度は約42℃になりますので、再度好みの温度に調節しなおしてください。

断水時・停電時の処置

断水時の処置

- 断水のときは、給湯栓を閉じて電源プラグをコンセントから抜いてください。
- 再使用するときは、必ず給湯栓から水のであるのを確かめてから6～10ページの「使用手順」の項にしたがって操作してください。

停電時の処置

- 使用中万一停電した場合は、給湯栓を閉じてください。
- 再通電したときは、6～10ページの「使用手順」の項にしたがって操作してください。

冬期の凍結による破損予防について

冬期には、寒冷地以外でも急な寒波のため湯沸器内の水が凍結し、湯沸器を破損することがあります。湯沸器が凍結し、破損すると高額な修理費用がかかりますので、次のような処置をして湯沸器の凍結による破損を予防してください。

凍結予防装置

- この湯沸器には、万一凍結予防処置を忘れたときや、急な冷え込みのときのために凍結予防ヒータを組み込んでいます。外気温が下がると自動的に湯沸器内を保温します。これは、凍結予防のためのもので、外気温度が極端に低くなるような場合は、効果がありませんので、12～13ページに記載の処置をしてください。

〈ご注意〉

- 湯沸器内の水を抜くとき以外は、絶対に電源プラグを抜かないでください。電源プラグを抜くと凍結予防ヒータが作動しません。

冬期の凍結による破損予防について②

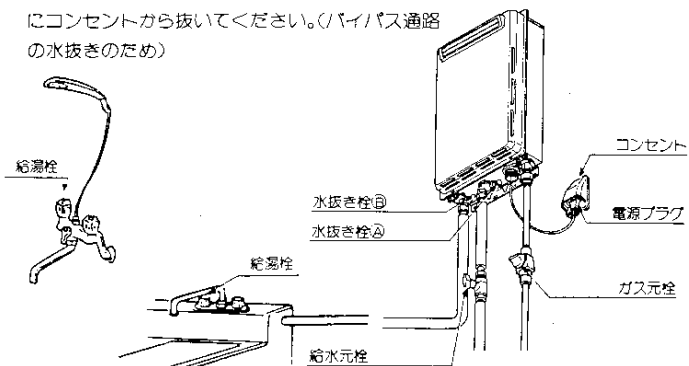
湯沸器内の水を抜く方法

〈入居前や長期不在の場合〉

- 給水配管、給湯配管の凍結予防はできませんが、凍結から湯沸器を守るには、最も良い方法です。

〈水抜きの手順〉

- ①ガス元栓を閉じてください。
- ②電源プラグをコンセントから抜いてください。
- ③給水元栓を閉じてください。
- ④すべての給湯栓を開いてください。
- ⑤水抜き栓④、水抜き栓⑤を左に回して外してください。
- ⑥電源プラグを再度コンセントに差し込み約10秒後にコンセントから抜いてください。(バイパス通路の水抜きのため)



〈ご注意〉

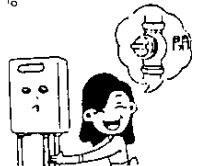
- ①給湯栓は、次にお使いのときまで開いたままにし、水抜き栓④および水抜き栓⑤は、外したままにしておいてください。
- ②再び、使用されるときは、水抜き栓④および水抜き栓⑤を閉じ、給水元栓を開いて、給湯栓から水が流れるのを確認してください。このとき水抜き栓④水抜き栓⑤から水漏れがないかを確認してください。(電源プラグをコンセントにしっかり差し込み、6～10ページの「使用手順」の項にしたがって操作してください。)

冬期の凍結による破損予防について ③

給湯栓から水を出し放しにする方法

- 湯沸器本体だけでなく、給水配管、給湯配管の凍結予防にもなります。

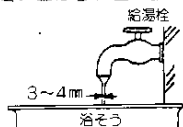
ガス元栓を閉じてください。



メインコントロールの運転スイッチを「切」にしてください。

※電源プラグは抜かないでください。

給湯栓より少量の水を流してください。1分間に牛乳ビン1本(200cc)以上。(寒い日は多い目に)



〈ご注意〉

- 給湯栓からの流量が不安定なことがありますので、念のため30分くらい後に、もう一度流量を確認してください。(少なすぎると凍結予防にはなりません)

凍結したときには

- ①凍結したときには、湯沸器に不具合が生じる場合があります。凍結がとけたあと、水漏れや、作動に不具合がないことを、確認してご使用ください。
- ②湯沸器や配管が破損すると、高額な修理費用がかかります。(有料)

長期間使用しない場合

長期間使用しない場合は、電源プラグをコンセントから抜いて、ガス元栓、給水元栓を閉じ必ず湯沸器内の水を抜いてください。(詳しくは12ページの「湯沸器内の水を抜く方法」の項にしがたってください)

日常の点検・手入れ

- ①湯沸器を安全に長くご使用いただくために日常の点検、手入れを必ず行ってください。
- ②日常の点検・手入れの際には必ずガスの元栓を閉じ電源プラグをコンセントから抜いて、湯沸器が十分冷えてから行ってください。
- ③前板などは、外さないでください。

日常の点検

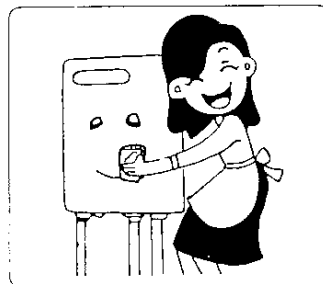
- ①湯沸器の上や周囲に燃えやすいものを置いていませんか?
- ②ガス配管部からガス漏れしていませんか?
- ③給水、給湯配管から水漏れしていませんか?
- ④排気トップ(排気口)や給気口をふさいでいませんか?
(排気トップ(排気口)、給気口は2ページの「各部の名称」の項をごらんください。)
- ⑤湯沸器のご使用に支障がなくても、2~3年に1回くらいバーナや各部の作動が「正常」かどうか定期的に点検するのが、安全に長期間使用いただくための「ひけつ」です。点検のご依頼は、お買求めの販売店、またはもよりの大阪ガス社にご相談ください。

日常のお手入れ

- ①前板・後板のそうじ
- 湯沸器の前板・後板の汚れはやわらかい布、またはスポンジに台所用中性洗剤を付けてふき取ってください。(洗剤が残らないようご注意ください。)

〈ご注意〉

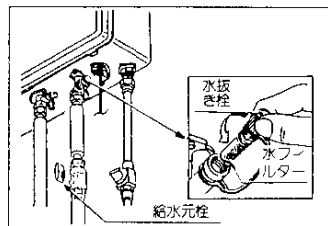
- 金属たわし・みがき粉・シンナーやベンジンなどは使用しないでください。(湯沸器本体の色が変色したり、印刷表示物の文字が消えます。)



日常の点検・手入れ②

②水フィルターのそうじ

- 水フィルターに配管内のゴミ、砂がたまりますとお湯が出にくくなります。その場合は給水元栓を閉じ、水抜き栓を左に回して外し、水フィルターを引き出して、そうじしてください。



故障・異常の見分け方と処置方法

ご使用中にふだんと違った状態になったときや、不具合が生じたときは、そのままお使いにならず、ただちにご使用を中止して十分な点検をお願いします。

次のような場合は故障ではありません

①最低作動水量について

この湯沸器は、湯沸器内の通水量が最低作動水量(2.5ℓ/分)以下になったときは点火しませんので、故障とお間違いのないように、ご注意ください。

②同時給湯について

2箇所同時にお湯を使用するときに、給湯配管の方法、給湯栓の開きぐあいによって、それぞれの給湯栓のお湯の量が異なることがあります。特に湯沸器から遠い場所、高い位置の給湯栓では、お湯の出ない場合もあります。また、シャワーをご使用中に、他の給湯栓を同時使用しますと湯温や湯量が変わりますので、ご注意ください。

③排気トップからの白い煙について

冬期(外気温が低いとき)には、排気ガス中の水分が水蒸気に変わるために排気トップから白い煙が出ることがあります。

これは、人のはく息が白くなるのと同じ現象ですので、何ら心配はありません。

④出湯停止後のファンの回転について

再使用時の点火をより早くするため約7分間は回転しています。これは異常ではありません。

- ⑤ウォーターハンマー(給湯栓を急にとめると、ゴツンと音がすること)について
給水パイプに逆止弁をとりつけると、音がする場合がありますが水が急にとまるため発生する音で異常ではありません。

故障・異常の見分け方と処置方法②

故障または異常例 (注意) A又はBの状態になるとメーンコントロールおよびシャワーコントロールの燃焼ランプが点滅をはじめます。

異常現象	異常原因						処置方法	参照ページ
	A 給湯栓を開いても着火しない	B 使用中に消火した消火ボタン	C 高温の湯がない	D 使用中湯温が極端に変動する	E 異常な音をだてて燃焼する	F 過圧逃し弁から常時水がでる		
ガス元栓の開きが不十分	○		○				ガス元栓を全開にする	6
配管内に空気が残っている	○						点火操作を繰り返す	6
給水元栓の開きが不十分	○	○		○			給水元栓を全開にする	6
水圧が適切でない	低い	○	○	○			点検・修理を依頼する	—
	高い					○		—
水フィルターにごみがつまっている	○	○		○			つまり除去または点検・修理を依頼する	15
給湯栓の開きが不十分	○	○		○			給湯栓を十分に開く	6
電源プラグの差し込み忘れ	○						電源プラグを差し込む	6
点火装置の故障	○						点検・修理を依頼する	—
水温調節の故障	○		○	○			点検・修理を依頼する	—
安全装置が作動	○	○					点検・修理を依頼する	—
バーナの逆火					○		点検・修理を依頼する	—

原因や処置がわからないときは、ただちにお買い求めの販売店、またはもよりの大阪ガス支社にご連絡ください。

(冬期には水抜き操作を行ってください。詳しくは12ページの「湯沸器内の水を抜く方法」の項にしたがってください。)

故障・異常の見分け方と処置方法 ③

安全装置の種類とその働き

① 立消え安全装置

万一使用中にバーナの炎が消えたときは、この安全装置が働いて自動的にガスを止める装置です。

② 過熱防止装置

使用中湯沸器内の温度が異常に高くなったときは、この安全装置が働いて自動的にガスを止める装置です。

③ 空だき安全装置

熱交換器が異常な温度上昇をしたときはこの安全装置が働いて自動的にガスを止める装置です。

④ 過昇温安全装置

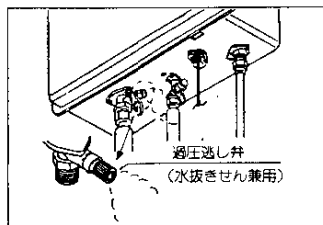
この安全装置が作動しても故障ではありません。使用の際に、湯量を極端に絞ったり、水圧が低いときに湯温が過度に上昇することがあるため、過昇温防止装置を設けてあります。湯温が約95℃以上になるとこの装置が働いて、自動的に消火します。

⑤ 過圧防止安全装置

湯沸器の使用停止直後に熱交換器の余熱により、熱交換器内の圧力が高くなり過圧逃し弁が作動して水がポタポタ出ることがありますが、湯沸器の故障ではありません。この様な場合には床面をぬらしますので不都合が生じるときには、過圧逃し弁の排水処理が必要です。お買い求めの販売店、またはもよりの大阪ガス支社にご相談ください。

〈ご注意〉

●空だき安全装置が作動する際には、湯沸器の損傷を防ぐため過圧防止安全装置(過圧逃し弁)が作動し高温の蒸気が噴出しますので、ご注意ください。



⑥ 凍結予防装置

11～13ページの「冬期の凍結による破損予防について」の項をごらんください。

⑦ 漏電安全装置

万一、湯沸器の電気回路から漏電したときに、この安全装置が作動して、漏電による湯沸器の電気部品が故障することを防ぎます。

故障・異常の見分け方と処置方法 ④

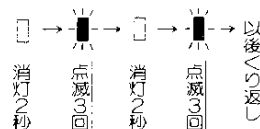
■異常報知(警報モニター)について

●湯沸器に不具合が生じた時、メインコントローラ(付属品)およびシャワーコントローラ(別売部品)の燃焼ランプの点滅によって、不具合の原因を知らせる異常報知(警報モニター)機能が付いています。

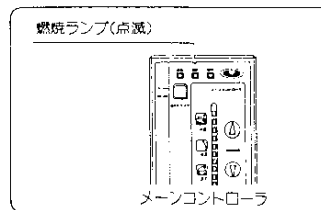
〈活用の仕方〉

- 燃焼ランプの点滅回数をチェックします。(点滅回数とは、消灯2秒間と次の消灯2秒間の間の連続した点滅の回数を指します。)
- 次に、器具本体前板の裏側に貼付された配線図ラベルの右下に、一覧表がありますので、チェックした点滅回数と一致する内容をさがしてください。

(例)



このような点滅をくり返している場合、点滅数は3回なので、右表(配線図ラベルの警報モニターについての表示)で見ると、No.3の「ハイリミットSW又は温度ヒューズ作動」が原因であることが判ります。



(シャワーコントローラも同様)

NO.	燃焼ランプの点滅周期	内容
1	●●●●●●●● 点滅数1	バーナ不着火
2	●●●●●●●●●● 点滅数2	バーナ失火
3	●●●●●●●●●●●● 点滅数3	ハイリミットSW又は温度ヒューズ作動
4	●●●●●●●●●●●●●● 点滅数5	給湯サーミスタ異常
5	●●●●●●●●●●●●●●●● 点滅数6	送風機異常
6	●●●●●●●●●●●●●●●●●● 点滅数7	湯温が異常高温
7	●●●●●●●●●●●●●●●●●●●● 点滅数8	バーコン(電装基板)異常

仕様一覧表

種別	33-557型			
項目				
設置方式	屋外設置			
外形寸法(mm)	高さ510×幅350×奥行130			
重量(kg)	17			
接続	ガス	13A・LP用…15A(PT1/2)・6C・6A用…20A(PT3/4)		
	給水	15A(PT1/2)		
	給湯	15A(PT1/2)		
	電気	AC100V		
最大ガス消費量(Kcal/h)	都市ガス6C	都市ガス13A	都市ガス6A	LPガス
	30,000	30,000	30,000	2.5(kg/h)
消費電力(W)	50(凍結予防ヒータ76)			
点火方式	連続スパーク点火、ダイレクト着火			
必要使用水圧(kgf/cm ²)	0.8			
出湯量(水温+25℃)(ℓ/分)	16(湯水混合水栓で混合したとき)			
最低作動水量(ℓ/分)	2.5(作動水圧0.1kg/cm ²)			
安全装置	立消え安全装置			
	過熱防止装置			
	空だき安全装置			
	過昇温安全装置			
	過圧防止安全装置			
	凍結予防装置 漏電しゃ断器			
別売部品のご紹介				
●シャワーコントローラ……………38-554				
●配管カバー450型(長さ450mm)……………38-555				
● 〃 200型(長さ200mm)……………38-556				
●排気カバー……………38-558				

アフターサービス

サービスのお申し込み

①15～18ページの「故障・異常の見分け方と処置方法」の項を見てもう一度ご確認ください。

②確認のうえ、それでも不具合がある場合、あるいはご不明な点がある場合ご自分で修理なさらないでお買い求めの販売店、またはもよりの大阪ガス支社へご連絡ください。なお、ご連絡いただくときは、次のことをお知らせください。

- ① 品名……ガス瞬間湯沸器
- ② 大阪ガス商品コード……湯沸器の正面右下に貼付してあります。

(例)

(N)33-557(U)

大阪ガス株式会社 **03**

③ 現象……できるだけ詳しく

④ 通順……できるだけ詳しく

転居される場合

●ガスの種類には、都市ガスとLPガスとがあり都市ガスにはガスグループの区分があります。ガスの種類、ガスグループの区分が異なる地域へ転居される場合には、部品の交換や調整が必要となりますので、転居先のガスの種類、ガスグループの区分を確認のうえ、お買い求めの販売店、またはもよりの大阪ガス支社にご相談ください。この場合、調整・改造に要する費用は保証期間内でも有料となります。

保証について

- この湯沸器には保証書がついています。
- 保証書に記載のように、湯沸器の故障について修理いたします。詳しくは保証書をごらんください。
- 保証書を紛失されると、無料修理期間であっても修理費をいただくことがありますので、この取扱説明書とともに大切に保管してください。

補修用性能部品の最低保有期間について

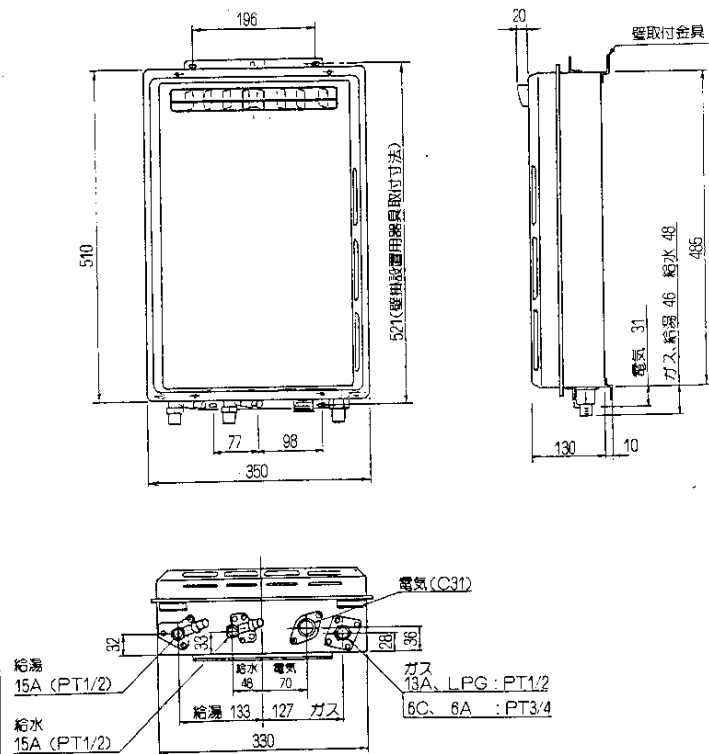
①無料修理期間経過後の修理については、お買い求めの販売店、またはもよりの大阪ガス支社にご相談ください。修理によって性能が維持できる場合は有料修理します。

②補修用性能部品の最低保有期間は製造打切後10年です。

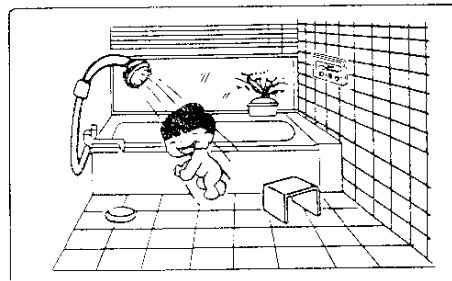
※性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。

寸法図

(単位: mm)



本製品と快適なくらしのために



おねがい

ガスくさいときはお部屋の元気を閉じ、窓を全開にしてから（火気に注意して）お買い求めの販売店、またはもよりの大販ガス支社にご連絡ください。

特長

- 45dB(A)の低騒音を実施
 早朝のモーニングシャワーや深夜のご入浴に、お隣りに気がねなくお使いいただける静かな燃焼音を実現しました。
- 省スペースタイプ
 高さ51cm、幅35cm、奥行13cmと、コンパクトな湯沸器です。
- 出湯温度はいつも一定
 電子コントロール方式で出湯温度を検知して自動的にガス量を抑制しますから、季節により水温が変化しても出湯温度は変わりません。
- 簡単操作の湯温設定
 湯温調節ランプの位置を合わせるだけでお好みの湯温が、しかも操作はお部屋の中で簡単にできます。
- ガス、お湯の無駄が少ない省エネルギータイプです。
 - 出湯能力は16号から2号まで自動的に調節しますから使用用途にに応じて過温、過量の湯が得られます。(ただし出湯能力の範囲内で)
 - 給湯栓を開くだけで、メインバーナーに着火するダイレクト着火方式ですから使用していない時は、たね火もなく省エネ設計です。
- 異常報知(警報モニター)付
 万一、湯沸器の故障が起きても、原因がひと目でわかる異常報知(警報モニター)が付いているので安心です。